

爽やかな共感

水色の高い空を背景にして、中庭のケヤキの紅葉が白亜の校舎と鮮やかなコントラストをなしている。陽の光が時々校長室に差し込んで、暖かな日だまりを作る。

2年生の修学旅行の結団式で、監督の先生の結婚披露宴で歌って踊って盛り上げた後、クラッカーを鳴らし、その後で飛び散ったテープや紙片を手できれいにかき集めた女子バレーボール部員の話を紹介した。式に参加していた人たちの間から、いい子たちだね、という賛嘆の声が聞こえた。誰に言われなくとも、その場にふさわしい、しっかりとした行動ができることが大切であり、修学旅行は、みんなの振るまいが試される場だよ、と送り出した。修学旅行は品性、品格が問われる実地体験なのだよ、と。

教育は豊かな人間性、人格の陶冶を目指して行われる。人格の陶冶と言ったときにみんなはどのようなことを考えるか。思い描くイメージは千差万別かも知れない。



(ソウル 景福宮にて)

2年生が修学旅行から帰ってきた日に、長野県在住のある女性の方から電話を頂いた。ソウルのホテルで同宿し、本高生に声をかけた。その時のあいさつや、爽やかな振る舞いに、とても感激した。今は、日本と韓国との関係は必ずしも良好とは言えないが、そうした時だからこそ、このような日本人が韓国を訪問することは意義のあることだ。同じ日本人としてうれしく、誇りに思う、というとてもうれしい内容の電話であった。更に、ホームページを読んだが、学校の教育方針がしっかりと生徒に受け止められていると感じた、と大変に評価もしていただいた。

9月に実施した特別講演会で、講師の林左絵子国立天文台准教授にも、本高生のあいさつはすばらしい、どこに出ても恥ずかしくないね、とお褒めの言葉をいただいていた。

人間性や品格といったものは、大袈裟なものではなく、何気ない言葉や振る舞いの中ににじみ出るようなものかも知れない。もっと言えば、大きな困難に直面した時にその人がどう振る舞うかということがその人の品格、品位そのものだと思うが、それは細部ににじみ出る人間性なくして作り上げられることはないということだ。

たかがあいさつと思う事なかれ。おはようございます、こんにちわ、お疲れ様ですという滲刺とした音声は、相手の心にまっすぐに届く。光がさあっと広がるように、相手の心を照らし、明るい気分させる。あいさつは相手の心で軽やかにスキップをする。

善意は連鎖する。憎しみは憎しみを増幅させ、善意は爽やかな共感を広げる。韓国班の修学旅行隊の振る舞いは日常にありふれた、ごく小さな行為ではあったが、長野県の女性の心に残り、遠く秋田にまで届けられた。

本高生の一挙手一投足は、このように誰かの心にとどまっていく。それは、きっと、このような爽やかな共感であってほしいと願っている。